

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200888		
法人名	(有)日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・四日市		
所在地	三重県四日市市赤堀1丁目6-2		
自己評価作成日	平成23年8月19日	評価結果市町提出日	平成23年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200888&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成23年 9月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設も10年目を迎え、今までの経験を生かしながらグループホームと言う施設の必要性や、行政が求める変化に対応できるかを常に考えながら、その人が生きて来た歴史を大切に、多分最後となる生活の場が、過ごしやすく安楽な場所になれるよう、各利用者の変化に目を向け、お互いに理解し合いながら、1日一回は大笑い出来る事を大切にしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年は3人の利用者が亡くなったり帰宅されたが、従来から協力医(内科)と看護師、薬剤師との連携を強めてきたので、家族にも喜ばれる支援をすることができた。事業所も開設から10年、経験豊かな職員も多くなり、地域の中でも落ち着いた雰囲気が醸し出されてきている。職員が「自分のおばあちゃんのように感じる」というように、職員にとって1軒の家になっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く住む利用者にとっては「自分の家」になってきている。新しく入居された方にもそう思ってもらえるよう支援し、暮らす場所が変わってもその人らしく暮らせるよう、また地域の一員である事を感じて頂けるよう支援している	3人の新しい利用者を迎え、利用者・職員ともに理念「あなたらしく、いつまでも」を共有しながら、職員も初心に戻って研修し、支援に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中の地域の人たちとの挨拶や立ち話、集会場での催しに参加する等、利用者の日常が地域に少しずつとけ込んできている。施設での催しには地域の方の参加を呼び掛け交流が出来るように努めている	散歩中の挨拶や立ち話等で、少しずつ地域との交流が出来てきているが、更なる取り組みとして、事業所行事への参加や見学を積極的に呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小・中学生の体験実習を受け入れ、認知症についての簡単な講義時間を作り、理解してもらえるようにしている。その他、専門学校などの研修生の受け入れも行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を実行している。施設内での問題点や地域での施設の在り方など、色々な内容で報告、話し合いをしている。	運営推進会議の意義はよく理解されており、2ヶ月に1回の開催を続けているが、地域性もあるのか、今一つ盛り上がりがなく、会議開催頻度やテーマにも苦慮している。	地域の皆さんからグループホームについての理解や支援を得る貴重な機会であるので、事業所の催物に参加してもらったり、皆さんに関心のあるテーマ選び等、更なる努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受入で定期的な訪問があり、何かと相談に乗って頂いている。	3人の新しい利用者を迎えたこともあり、ことあるごとに市の担当者のもとに相談に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員がしっかりと理解している。また言葉による拘束にも心がけ、その方がどうしたいのかを考えながら「抑制」をしない支援に努めている	言葉による拘束を含め身体拘束についての研修会には必ず出席し、職員全員に報告・徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない事を研修や会議において常に話している。現在までに事業所内での虐待は無いが、見過ごすことがないように常に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には知りえる限りの情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、納得していただいたうえで契約としている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接ノートの活用、面会時に家族様と話す、など意見・要望をいつも聞かせて頂けるよう時間を取っている。玄関にはご意見箱も設置している	面接時に意見を伺ったり、面接ノートにコメントを記入できるようにしたりして、意見要望の収集に努めている。又、たより「ちまき通信」や各利用者毎へのたより「ご家族様へ」を発行し、家族との距離を縮めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議において、意見・提案を話し合っている。また必要時にはいつでも話し合いが出来るようにしている。	定例の月1回の会議や、随時「職員間ノート」に疑問や思いを記入し、管理者や施設長に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・管理者の評価を行い、能力に見合った報酬を定めたり見直したりしている。その他資格取得や外部研修については常に掲示しており、希望すれば参加できるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合った研修を行い、より理解し、介護現場での不安や悩みを解決できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への実習や当事業所への研修受け入れなどを行いながら交流が持てるよう機会を設けている。また合同研修や行事をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に一番困っている事、不安な事を聞かせて頂き、入居後も本人の気持を聴き理解するため時間をかけ信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で家族の抱える問題を話し合い、施設での暮らしはどのようなものかを説明しながらご家族の不安を理解する事から関係作りが始まると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、GHと言う施設での生活、支援が必要かをご本人・家族の立場から検討するようにしている。また半年、1年と時間が経っても必要性について考え反しあう機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る・出来ないだけでなく、したい・したくない事を理解し、毎日の状態を見ながら支援方法を変え、支えあう事でお互いの関係を築いて行けると考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の利用者と家族の関係性を知る事で、入居後の関係を繋いで行ける参考とし、行事への参加などを呼び掛け交流の機会を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会・馴染みの場所への外出など出来る限りの支援はしているが、職員の人数的な事もあり、外出はいつも出来るとは限らない	利用者各人の馴染みの人や場所などの情報の把握努力をしており、利用者の孫娘の発表会に職員が付き添って見に行くというように、出来る限りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が自然に交流が持てるよう職員がきっかけを作るようにしている。利用者同士にも好き嫌いがあるので、トラブルに発展しないように気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居にはお見舞いやその後の家族の相談にのったり、退居後亡くなられた場合は葬儀に参列させていただいたりしながらご家族との交流は図っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で希望や意向を伝えられない方もいるため、日常の会話や表情などから感じ取り。出来る限り実現できるよう支援している	散歩や入浴といった職員と二人っきりになったとき、利用者はポツリポツリと本音を話されることが多く、機会を捉えて希望や意向の把握に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の何気ない会話や行動から情報収集を行い、職員間で情報共有している。センター方式を使いご家族からの情報も頂きアセスメントしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその方の1日の過ごし方を理解し、変化に目を向けながら出来る事をやってくれるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からもらった情報、本人の訴え、職員からの情報を共有しながらカンファレンスを行い、計画に反映できるようにしている	本人家族の希望に担当職員の情報を加え、全員で計画を立てている。毎月の会議で見直し、チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の気づきや実際の状態を個別に記録している、また申し送りにより詳しい状況を伝えあい変化に対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望で孫娘の発表会へ参加したり、主治医以外の受診の対応等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの催し物を受け入れたりしながら楽しみを持って頂けるようにしている。近所への散歩も一人で出かける事が出来る人もいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの協力医との関係も長くなり、色々な問題にも丁寧に対応して頂ける。専門的な受診や検査が必要な場合はすぐに紹介状を書いて頂けスムーズな受診・検査が出来ている。	協力医との連携も良く、利用者全員が受診している。協力医の看護師の派遣もあり、利用者の加減が優れない時等、看護師から主治医に連絡され、受診につながる時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度協力医の看護師が勤務しており、問題点があれば主治医に伝達され、適切な受診が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には細かな情報提供が行えるように努めている。また主治医との意見交換や家族の意向を踏まえ早期退院に向けた支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に簡単な意向はお聞きするが、あくまでその時の状態の変化に合わせ施設で出来る事を伝え、家族と主治医と話し合いながら適切な支援を心掛けている	事業所として出来る限りの支援をするという方針であり、利用者の状態の変化に合わせ、家族とはその都度主治医を交え話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルはあるが、普段から冷静な判断・対応が出来るように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については何度も会議や運営推進会議で話し合ってきた。年2回の避難訓練と合わせ、GH協会の行う地震想定での避難訓練も行っている	消防署の指導の下、年2回の訓練をしているし、地震想定での避難訓練もしているが、半年前の東北の地震経験から、もしこちらで発生したら・・・という不安が職員にもある。	地震・避難に瞬時に対応できる利用者も少ない現状では、初期行動が非常に大切である。まず〇〇をする→次に〇〇をするというように、職員全員が自信を持って動けるように訓練されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛け、個々に合った対応に努めている。名前などは本人や家族に沿った呼び方で呼んでいる。伝達、申し送りは場所を選びおこなっている	人格の尊重とプライバシーは常に心掛けており、特に言葉かけには注意している。新しく入居された3人には、家族から今まで呼んでいた、なじみの呼び方を教えてもらい、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の暮らしで分かってくる本人の希望を理解し、自己決定に繋がるよう支援している。入浴の有無・献立など生活の色々な場面で希望が取り入れられるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間は決まって入るが、個々のペースで生活が出来るようにしている。意思の疎通が困難な方への配慮も忘れないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたりする方はいないが、洋服などは個人の好みを大切に各自で選んで頂いている。外出時には着替えたりされる。訪問理容でカットや顔そりなどをしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話で好みを聞いたりして献立に取り入れている。盛り付け・片付けと一緒にやっている。年に数回外食をしたり出前を取ったりしながら食べる楽しみを支援している	職員が利用者の好みや意見を聞きながらメニューづくりをしている。食材の購入も広告を見ながら利用者と買いに行くし、下ごしらえから調理・片付けも一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難や咀嚼困難な方もいるが食事形態や量に配慮しながら栄養のバランスに気を付けている。水分補給に関してはいつでも好きな時に飲んで頂けるようお茶等を用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを支援している。自分で磨けない方には口腔ケアティッシュで口腔内を清潔に保てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを知る事でリハパンや尿パッドを外すことが出来るよう支援している。失禁が多い方も出来る限りトイレで排尿が出来るよう行動パターンや癖を理解するよう心掛けている	そわそわしたりズボンを触ったりという、排泄しなくなった時の利用者の癖を知り、声かけによってオムツの人が布パンツになったり、パットの使用が少なくなった。又、自然排便のためにバナナジュースや酒かすを味噌汁に入れたり努力もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を活用し確認している。バナナジュースや酒粕の利用で自然な排せつを促し、便秘防止に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間設定はあるが、その日の体調や気分次第で順番を決めたり、入浴剤を入れ楽しめるようにしている	風呂好きの人もおり、毎日入浴できるようにしている。入浴の順番でもめることはなく、中で歌をうたう利用者があるくらい安らぎの時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休んだり、マッサージ機に座って居眠りをしたりと個々の時間を過ごせるようにしている。不眠が続く時は主治医と薬剤師と話し合い薬を利用する場合もある。季節に応じて快適な睡眠がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬に日付と名前が書いてあり服薬チェック表で確認している。1-2ヶ月に1度薬剤師との勉強会を行い、各自の状態を伝え薬の変更や増減の必要を指示して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で各自が出来る事を役割として行うように支援している。夕食の献立や自身の誕生日のメニューを決めたりおやつ等で好みのものを取り入れるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は難しい事もあるが、朝の散歩や買い物、季節ごとの外出支援は行っている。自宅へ外泊したり家族と旅行をしたりできるよう支援している	天気の良い日の朝の散歩や季節を感じる外出は計画を立てて行っている。また孫娘の発表会を見に行くというような、利用者個人の希望をかなえる外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった時や買い物に出かける機会があった時は自分で払えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに作った作品を飾ったり、日常で撮った写真を飾ったりしている。またこまめな換気と掃除で清潔を保つよう心掛けている。室内の温湿度計を確認し過ごしやすい環境を作れるようにしている	廊下には催物ごとの写真がコメント付きで飾ってあるし、利用者の手作りの作品もあり、それを見ながらの会話も楽しめる。また食堂(兼居間)は、天井が高く天窓から明るい日差しが差し込んでおり、台所にいる職員とも会話が弾む雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り何気ない会話を楽しんだりする光景はよくある。自室でテレビを見たり横になったりと各自が好きなように過ごせるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なかなか使いなれたものを持って来て下さる家族はいない。家具などは新しくなっても飾りやカレンダーなど小さなものでも見慣れたものを置いて頂けるようにはしている。だんだんと自分の部屋になって行けるよう支援している	入居間もない方の部屋は飾りつけも少なく、スッキリ感がするが、入居期間の長い方は写真や手作り品、季節の花等を飾り、自分流の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危ないからどけるのではなく、それを避けて動く事が「できる」よう支援している。個々の出来る能力を見極め支援したい		